平成 26 年度 東京都内湾水生生物調査 5 月成魚調査速報

●実施状況

平成 26 年 5 月 30 日に成魚調査を実施した。天気は晴れで、気温 22.2~24.3°C、南寄りの風 3.9~4.5m で海は静穏だった。調査当日は大潮で、干潮が 11 時 52 分、満潮が 5 時 01 分、18 時 30 分であった(東京都港湾局のデータ)。調査当日は透明度が高く、St.35 では 8.8m であった(昨年の同時期は 2~3m)。また、底層の DO は 2.5~5.0mg/L であり、貧酸素状態ではなかった。

	St.25	St.35	St.22	St.10
作業時刻	8:56-9:33	9:46-10:24	10:46-11:23	11:28-12:21
水深(m)	16.1	24.2	12.9	7.0
天候	晴	晴	晴	晴
気温(℃)	22.7	22.2	24.0	24.3
風向/ 風速(m/sec)	\$/3.9	SW/4.0	SW/4.5	SW/4.4
水温(°C)	20.8	20.6	21.5	22.3
	18.1	16.7	18.7	19.2
塩分(一)	26.5	27.8	25.1	25.0
- <u>-</u>	32.4	33.7	31.6	30.5
透明度(m)	7.3	8.8	6.2	4.5
DO(/L)	4.4	6.1	6.5	6.8
DO(mg/L)	3.1	2.5	5.0	4.1
DO\$11000	57.4	79.6	85.0	90.0
DO飽和度(%)	40.0	31.0	65.2	52.7
波浪(m)	0.2	0.3	0.3	0.2
pH(-)	8.1	8.2	8.2	8.4
	8.0	7.8	8.0	8.1
水の臭気	なし(上下層とも)	なし(上下層とも)	なし(上下層とも)	なし(上下層とも)
	泥が多く入った。	泥は少なめ。ミズクラ	下層の DO は 65%で	クラゲが多く、網が浮
備考		ゲやアカクラゲなども	あり、4 地点のうち最	きやすい状態にあっ
		入った。	も DO が多かった。	た。2回目の曳網で
				網を底に着けること
				ができた。

上段:表層 0m 層 下段:海底面上 1m 層

●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。魚類は4種が出現。)

主な出現種等	St.25	St.35	St.22	St.10
魚類	ハタタテヌメリ(+) スジハゼ C(r)	ハタタテヌメリ(r) テンジクダイ(r)	ハタタテヌメリ(+) マコガレイ(+) テンジクダイ(r)	なし
魚類以外(目立った種)	クシノハクモヒトデ(m) チヨノハナガイ(m) オウギゴカイ(m)	アカクラゲ ミズクラゲ	クシノハクモヒトデ(m) スナヒトデ(c)	クシノハクモヒトデ(c) オウギゴカイ(c)
備考	上記の他、ヘイケガ ニ(r)、シャコ(r)、トリ ガイ(+)を採取	上記の他、ケブカエン コウガニ(r)、クシノハ クモヒトデ(r)を採取	上記の他、オウギゴ カイ(m)、ケブカエンコ ウガニ(+)、タイラギ (+)を採取	上記の他、スナヒトデ (r)、ホンビノスガイ (r)、シャコ(r)を採取

注)表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

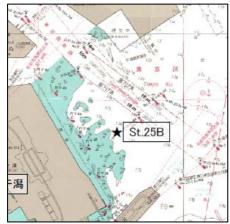
G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点:St.25

調査地点位置

水質状況

地点状况

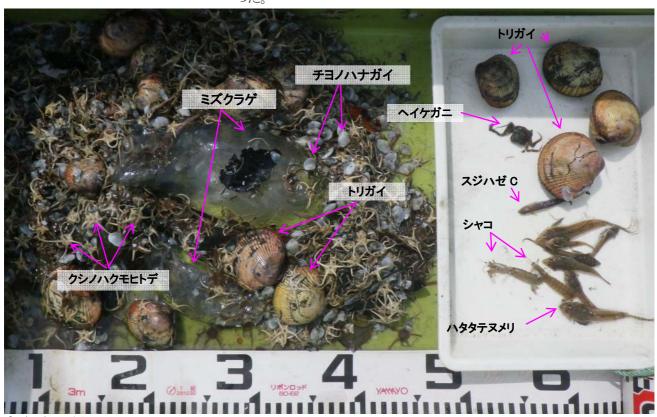


St25
水温(で)・世分()・酸本型(me/L)
00 100 200 300 400
20 40 60 80 80 80 100 120 140 160 180 200 160 180 200

西側には東京国際空港が見える。

採取試料

DO は下層でも 3.1mg/L あった。



主な出現種



ハタタテヌメリ 全長 14cm 程になる。春や秋には、 湾奥部に分布するが、夏には、湾央のやや深い場 所に分布する。本調査の主要種の1つである。東京 湾ではメゴチと呼ばれ、てんぷら等で賞味される。



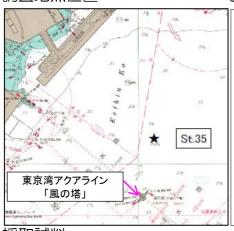
スジハゼ $C(\mp 3$ ウハゼ) 全長 8cm 程になる。体側に小さな青色の斑点が散在する。東京湾では湾奥から湾央にかけての水深 $10 \sim 40$ mほどの砂泥底に生息する。

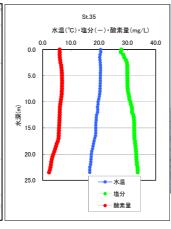
調査地点: St.35

調査地点位置

水質状況

地点状况

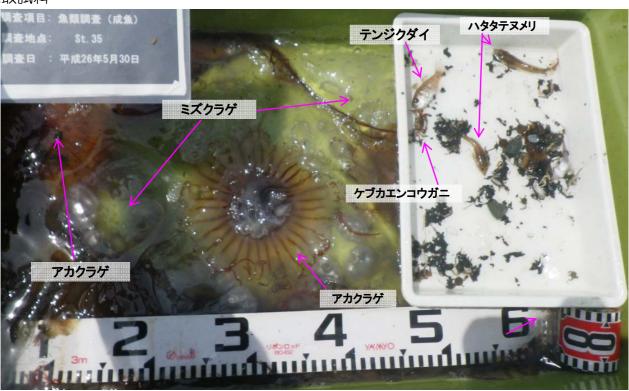






南側には東京湾アクアライン「風の塔」がみえる。

採取試料



主な出現種



テンジクダイ 全長8cm程になる。水深100m付近までの砂泥底に生息し、浅いところでは見られない。成魚は主にエビジャコ等の甲殻類を食べている。底曳網で大量に漁獲され、練り製品の材料等に利用されている。



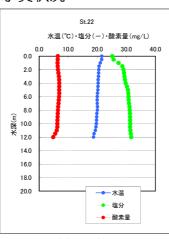
ケブカエンコウガニ 甲幅 3cm 程。水深 10~100m の砂泥底に生息する。東京湾では 2003 年頃から 増加。イッカククモガニとならんで、マアナゴやテン ジクダイなどの胃内容物として見つかっており、これら魚類の重要な餌となっている。

調査地点: St.22

調査地点位置

葛西人工渚 中央防波堤外側(その2)東側 St.10 St.22

水質状況



DO は下層でも約 5.0mg/L あった。

主な出現種



タイラギ 尖ったほうを下にして海底に立っ ている。大きいものは殻長 20cm を超える が、湾奥部では貧酸素の影響でこのサイズ (10cm 程度)で死滅する。



主な出現種



マコガレイ 全長 45cm 程になるが、今回採捕された 個体は10cm以下であった。水深100m以浅の砂泥 底に生息する。東京湾での小型底引網漁業の対象 としてもっとも重要な魚種の1つ。



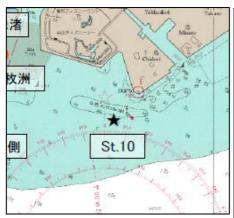
トリガイ St.25 でも多く採取されたが、この地点で採取 された個体は、ほとんどが死亡または弱っていた。高水 温に弱く、夏になる前に漁獲されることが多い。底層の 水温は、St.25 よりやや高く、18.7℃であった。 殻長は 9cm 程になる。

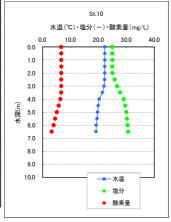
調査地点: St.10

調査地点位置

水質状況

地点状况

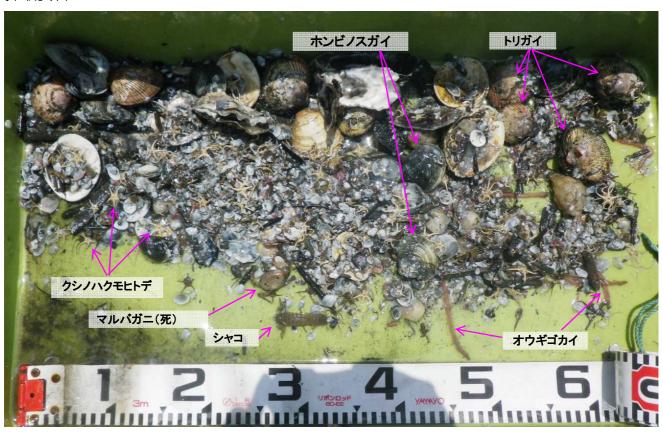






北側には東京ディズニーシーが見える。

採取試料



主な出現種



シャコ 体長 15cm 程になるが、今回採取された個体は 5cm 程度であった。東京湾では水深 $15\sim30m$ にすむ。肉食性で甲殻類、多毛類等を捕えて食べる。



ホンビノスガイ 貧酸素状態などの環境悪化に耐性のある貝。外来種であるが、東京湾ではおなじみの貝となっている。殻の色は本来白っぽいが、底泥中の硫化物の影響で黒っぽくなっている。

写真のものは殻長 5cm 程 度であるが、大型のもの は殻長 10cm を超える。